

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 19 No 8

217号

平成23年 8月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

東北外来小児科学研究会 - 被曝を考える - 院長

今回は、東北外来小児科学研究会の報告を書かせてください。昨年は自分が世話人でしたが、今回は一歩身を引き事務局を担当しました。と言っても仕事は昨年と同様で、特別講演の演者、パネルディスカッションのパネリストを探し、全ての連絡、手配を行なうものでした。また開催案内を作成し、HPに掲載、プログラムの作成だけでなく、会場の手配、ホテルの予約など雑用まで請け負いました。いつもいつも、大変な役割を担当しています(笑)。

7月31日(日曜日)に、仙台市医師会館で第10回東北外来小児科学研究会が開催されました。毎年東北で持ち回りで行われますが、10回の区切りとして永井幸夫先生を世話人として仙台市で開催することになりました。東日本大震災の影響もあり、中止や延期の意見も出ましたが、「東日本大震災を忘れない」をテーマとし開催しました。

震災にかかわる特別講演とパネルディスカッション(5人の担当者が話題を提供し会場の人たちとディスカッションするもの)を企画しました。特別講演は、国際医療福祉大学北原規先生の「子ども達への放射線被曝による障害と予防」、NPO法人ロシナンテス川原 尚行先生の「東日本大震災・スーダン内戦 - 子供たちの未来のために」でした。

どちらも素晴らしい講演でしたが、皆さんが一番関心を持っている北原先生の被曝の講演の概要を示します。

どう考えるか

- 1) 今まで人類の体験したことのない原発事故であり、被ばくの実態が明らかでない為、基本的には良く判らない。
- 2) 早急に被ばくの実態把握(被ばくの実態調査)が必要である。(県・国・学会の責任)
- 3) 今後原発事故の更なる展開が無ければ、チェルノブイリのような健康被害は恐らく起こらないだろう。
- 4) 福島原発の現況では母親(妊婦)も胎児も幼少児も甲状腺がんは誘発されないであろう。

どうすればよいか

- 1) 医療者は風評被害を防止する責任がある。
- 2) 福島県民の健康を包括的に支えるプログラムの作成が必要である。その枠組みの中で小児甲状腺フォローアップ体制の早期実現(コホート調査と医療の提供)が望まれる。
- 3) 妊婦や授乳婦がヨウ素を過剰に摂取しないような指導が必要である。
- 4) 現状では発がんの可能性は極めて低い、被ばく線量低減の為に最大限の努力をすべきである。
- 5) 子供を健康面・精神面・経済面において社会全体で支

える体制が必要である。

パネルディスカッションでは自分もパネリストとして参加、震災直後からの情報発信の有用性を、皆さんから頂いたメールとともに紹介しました。最後の大きな盛り上がりは、やはり放射性物質の被曝に関する問題でした。福島の市川陽子先生が県内の実情を報告し、親御さんや子どもたちに大きな混乱が生まれていることを伝えました。“子宮頸癌のワクチンをして、どうせ癌になる...”、“避難指示区域の小児科に子どもが来なくなり止むなく閉院した”など、我々が思いもよらぬ状況があることを知りました。世間では集団疎開の話もありますが、現状を考えるとどれだけ難しいことなのかと嘆いていました。最も大事なことは、正しい情報を保護者に伝えて安心させることを強調されていました。

最後に放射性物質の被曝に関して、自分の考えを述べます。最も大事なことは、情報に惑わされないことです。確かに何を信じていいのか、わからないというのは仕方ありません。でも何かを信じるしかないのです。空間放射線量は示されているし、仙台市の保育園、幼稚園、学校の計測では異常はありません。口に入る水、食物ではしっかり測定されているし、放射線量が高ければ出荷停止の措置もとられています。それを信じなければ、何も信じられなくなってしまいます。チェルノブイリでは、情報も無く汚染された空気、水や食物を、吸い続け口にしていたのです。

7月31日のフジTV ミスターサンデーでは、自然放射線量が高いと呼ばれる地域に向かい放射線量を測定していました。通常より放射線量が高い流山市のホットスポット(0.3 μ Sv/時)と建物や道路が花こう岩で作られたローマは同じ値を示し、花こう岩でできた日本橋も同じ量の放射線を発しています。12時間飛行機で飛べば通常の10倍以上の被曝があり、世界一放射線量の高いブラジルのリゾート地では、日本の100倍以上の放射線量が測定されました。また年間の被曝線量の限界をどこに定めるかも問題です。ICRP(国際放射線防護委員会)は、福島原発事故を非常時と判断し年間20~100mSvを推奨したが、日本は安全を考え20mSvを選んだとのこと。年間100mSv以上では人体への影響が確認されていますが、それ以下はブラックボックス(知ることができないもの)で、人体への影響は誰もわからないこととされています。

この番組から大丈夫とは言えないし、比較することの意味もありません。しかし、少なくとも原発周囲を除き、仙台市では心配は無いと考えています。もちろん、今後の内部被曝を可能な限り少なくするように、情報を信じて環境や口にするものに注意を向けることはとても重要です。

研究会の紹介が、被曝の記事になってしまいました。研究会の参加者は130人を越え大盛況だったことを付け加えておきます。終了後ねぎらいの言葉を頂き、疲れたけれども充実した時間と満足が得られました。最後に、自分自信に「お疲れ様」。そして皆さんに「ありがとうございました」。



8月のお知らせ

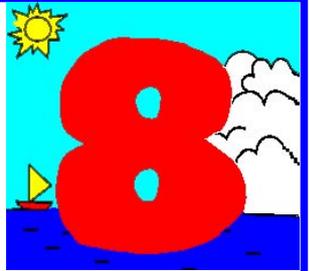
- ・臨時休診
6日午後
ウイメンズ・ヘルス・フォーラム(東京)
- 26日午後~27日
日本外来小児科学会(神戸)
- ・栄養育児相談
3、31日 栄養士担当
参加無料



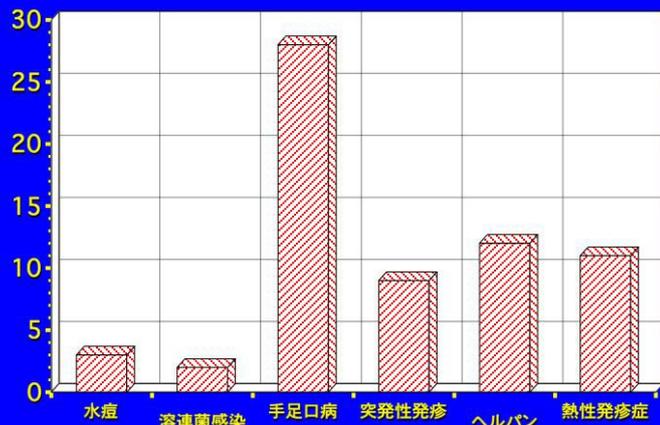
『がんばろう! 宮城 がんばろう! 日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は17通のメールを頂きました。まずは富谷町の鈴木さんから「昨日、今日とお世話になった鈴木葉奈の母です！先生のおかげで葉奈の元気な顔がみれてすごく安心しました。(=^▽^=)ノ。いつも以上に食欲もあってびっくりです(^m^)。かわむら先生のとこに行くといつもホッとして帰れます(∇)。看護婦さんもすごく優しくて嬉しいです(o^o^o)私、あと3人はこどもがほしいのでこれからも未永くよろしくお願ひします(●^-^●)。今回も本当にありがとうございます。」。ちょっと遠くから通ってきてくれています。切っ掛けは他の病院にかかって、不安が高まり当院を友人から紹介されて来院しました。今ではしっかりかかりつけになったみたいです。あと3人、頼もしい言葉です。少子化の日本のためにも、よろしくお願ひします。もう一通は、震災の時にもお見舞いのメールをいただいたフロリダの石鍋さんからです。お子さんの医療に関して報告してもらいましたが、紙面の関係で一部紹介します。「ご無沙汰しております、石鍋悠太の母です。フロリダで生活を始めてから11ヶ月、ようやく明日帰国いたします！先生やスタッフの方々には仙台だけでなく、アメリカでも変わらず大変お世話になり、何度も助けて頂きました事、心から感謝致します。大きな病気や怪我もなく、帰国できそうです。さて、こちらの小児科について。基本的に悠太が健康でいてくれたのでお世話になったのは少ない方なのかもしれません。(病院について) 私達の小児科の病院は大きな病院の一角にあり(専用の入り口があります)、10名程の小児科医が2,3名ずつ交代で診察をしているような病院でした。悠太の担当の先生は2人。(予約)電話で予約しますが、当日に連絡して、その日に診て頂きました。(流れ)待合室で名前を呼ばれ、通路にある測定器(おでこにあてるだけ)で熱を測り、体重を量る。そしていくつかある個室の1室に通されます。案内スタッフが病状について質問をし、退室後にドクターが登場します。(診察)子供をだっこした状態で聴診器をあて、ベッドでお腹を触診、耳の中をチェック。(薬)処方箋をその場で発行、近くのスーパーなどに併設されている薬局で購入。(支払い)私達の場合は、窓口支払いはありませんでした。出国前に歯・妊娠以外であれば、治療費・薬代を全てカバーする日本企業の保険に入っていたので窓口支払いはありませんでした。参考までにセンターに問い合わせ、請求額を伺いました。中耳炎 → \$66 中耳炎 → \$151 脱臼治療・ねんざ診断 → \$256。医療費の相場は地域によってかなりの差が発生するそうです。ニュージャージー州にいた親戚は、注射1本で病院から保険会社側に20万円の請求があり、保険会社が交渉し、請求額が少なくなり、最終的に本人負担は4千円だったそうです。こちらでも大変お世話になり、慣れない生活で不安な中、クリニックの存在はとてとても心強かったです。本当に有難うございました。先生、また引き続き仙台でお世話になりますが、どうぞ宜しくお願いします。」。大きな病気もせず帰国できて何よりでした。助けたなんて大袈裟ですよ。かかりつけの患者さんはどこへ行っても、かかりつけです。医療に関する報告ありがとうございました。わざわざ医療費まで問い合わせしてくれましたね。やはり米国では医療費が高そう。診察室の写真まで送ってくれました。こちらこそ、ありがとうございました。



7月の感染症の集計



水痘と溶連菌感染症は激減しました。手足口病が西日本では爆発的に流行しています。周囲でも手足口病が流行しています。今年は熱が出る割合が高く、発疹の広がりが目立つ傾向があります。また名前の付かない発疹症も多くみられています。当院では大学の微生物分野との協力により、普通では見つけることができないウイルスを同定できるようになりました。7月検出のウイルスは、hMPV、パラインフルエンザでした。

Mail News, Twitter, Blog の紹介



Mail News は、震災を切っ掛けに345人を越えるお母さん方に登録をいただいています。右上のバーコードから「登録希望」と登録者、お子さんの名前を送信してください。

携帯用HP(左のバーコード)でMail NewsとTwitterも読めます。両方で情報を提供していました。Blog(右下バーコード)では、震災の始まりからの詳しい状況を写真入りで紹介してあります。是非お読みください！



夏季休暇のお知らせ (震災の従業員慰安を兼ねています)
8月15日(月)～20日(土)
 ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

参考【外部被曝と内部被曝】

外部被曝は体外にある放射線源(放射性物質)から受けるもので、わかりやすい例は胸部レントゲン検査や胃の透視、CTなどです。内部被曝は、何らかの理由で放射線源が体内に取り込まれることによるものです。放射性物質が体内に入るのは、主に口からの水分や食べ物によるもの(経口曝露)、呼吸によって吸い込まれるもの(経気道曝露)、皮膚から入るもの(経皮曝露)に分類できます。

経口曝露と経気道曝露は、日常生活で起こるものです。経気道曝露を防ぐためにはマスクを付けるとか、外にでないとかの方法もありますが、距離が離れば低くなります。経口曝露は政府から出される情報により、出荷停止等の措置が取られれば防ぐことが可能です。但し、内部被曝は時間とともに蓄積していくもので、できるだけ減らす工夫や対策が必要です。現在は出荷停止等の対策があるので、大丈夫です。

予防接種が一部変更になりました(日本脳炎、震災救済)
 詳細は院内掲示、Blogをご覧ください

編集後記

今年は梅雨入りの頃のピカピカの天気とは違って変り梅雨みたいな天気が続いています。やはり夏はあつくなくちゃと思う、今日この頃です。原発事故による被曝が大きな関心事であることは、一面記事にも書きました。それ以外に「子ども手当」がどうなるかも、関心が高いかもしれません。政策としては良かったのに、さてどうなることでしょうか？



『お母さんクラブ』は、9月から再開の予定です。楽しいことも大切です。ご期待ください！！

震災でのクリニックの対応・院長の取組み・患者さんからのメール・被災状況は、Blog「こどもクリニック四方山話」で！！